

研究課題名	急性骨髄性白血病に合併する凝固能異常が強化化学療法導入後の早期死亡におよぼす影響に関する観察研究
試料・情報の利用目的・ 利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	急性骨髄性白血病に対する治療としては強化化学療法が一般的ですが、強化化学療法開始後の早期死亡が依然問題となっています。早期死亡のリスクとしては発症時の白血球数や年齢等が報告されていますが、治療成績向上のためにさらなるリスクの検索が必要となります。白血病細胞は正常細胞と異なり体内の血液の固まる機序(凝固能)を乱して重篤な出血を起こす可能性があることが報告されており、そのため白血病発症時の凝固能の異常の程度が、早期死亡のリスクになると考えました。
研究対象者	2020 年以降に泉大津急性期メディカルセンターへ急性骨髄性白血病のために受診され、強化化学療法を受けられた方
利用又は提供する試料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：生年月、性別、急性骨髄性診断日、骨髓検査結果、化学療法の種類、ヘモグロビン値、PS (performance status)※、白血球数、赤血球数、ヘモグロビン値、血小板値、好中球数、末梢血異常細胞数、フィブリノーゲン値、FDP 値、PT-INR 値 薬剤導入後の経過：投与量、治療経過 (※PS：全身状態の指標であり、患者さんの日常生活の制限の程度を示します)
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2028 年 12 月 31 日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます 診療のために採取した血液の残余分を利用します
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は泉大津急性期メディカルセンター 血液内科のみで行います。
試料・情報の管理について 責任を有する者の氏名又は機関の名称	泉大津急性期メディカルセンター 血液内科 氏名：田添久実代
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません。
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	泉大津急性期メディカルセンター 血液内科 氏名：田添 久実代 〒595-0031 大阪府泉大津市我孫子 97 番 1 TEL：0570-02-1199